

「昨期まで3年連続で自分に勝った人が挑戦者になっていた。悔しい思いをしてきた。ミスもあったけれど、今日はベストを尽くせたと思う」。7日、岡山市で開かれた将棋の「第28期山陽アマ名人戦」(山陽新聞社主催)3番勝負に初進出し、3連覇を屈指した沖田幸輝さんから「名人」の称号を奪い、会心の笑顔を見せる。

浜松市出身。小学2年から地元公民館の将棋講座に通い始めた。詰め将棋を解き、本を読んで定跡を覚えては大人相手の対局で試すという独自の勉強法で実力を伸ばした。中学2年、高校1〜3年の4回、全日本アマ将棋名人

ひと

初の「山陽アマ名人」位を獲得した

戦の静岡県代表。大学進学で岡山に移ってからも学生、一般の大会で上位の常連となり、強豪として知られる存在だ。
有森浩三・七段#岡山市#
は「攻守のバランスが取れており、詰め将棋で鍛えた読み

はせがわ だいち
長谷川 大地さん



ベストを尽くせた

も正確」と棋力を評価する。
この1年間は卒業論文などであまり将棋の研究ができていなかったが、3番勝負直前の3月下旬に行われた学生選手権で、好感触をつかんだという。「勝つか負けるか一直線に踏み込む『斬り合い』が好き」だったが、選手権では、劣勢でも曲線的な指し回しで逆転するなど肩の力を抜いて指すことができた。「岡山に来て何度も対局し、尊敬する沖田さんに勝てたのもそのおかげかも」と喜ぶ。
将棋の魅力を「運の要素が少なく、勝っても負けても納得できるところ」と言い、「自分らしい将棋を指して、まずアマ名人位を防衛するのが目標」と謙虚に語る。(土井一義)